

中部産業遺産研究会 会報 第54号

Newsletter of The Chubu Society For The Industrial Heritage

目次

・第125回公開定例研究会の開催について	1
・規約改正検討委員会設立について	3
・創立20周年記念事業のお知らせ	4
・『産業遺産研究』インタビューの開催について	5
・「ものづくり文化再発見！ウォーキング」の開催について	5
・第32回「日本の技術史をみる眼」について	5
・短信 旧渡辺織布（蒲郡市三谷町）の操業停止と機械保存	天野武弘 6
・短信 見学記 旧山田家鋳物民俗資料館（枚方市）	渡辺治男 7
・お知らせ	10

・第125回公開定例研究会の開催について

日 時：2013年11月24日(日)、午後1時より

場 所：名古屋都市センター11F ホール

第1部 13:00～16:00

講演会「近代名古屋の発展と海外との関わり 戦前の国際都市名古屋の形成」

司会（朝井佐智子）、記録（藤田秀紀）

特別講演「近代都市と東アジアの関わり」70分

講師 高木傭太郎 氏（愛知東邦大学 非常勤講師）

質問 20分

休憩 10分

報告「海外との関わりから見た近代名古屋のまちづくり、ものづくり」30分

浅野伸一（中部産業遺産研究会会員）

報告「ドイツ人俘虜、産業と文化面で貢献」30分

校條善夫（中部産業遺産研究会会員）

質問 10分

休憩 10分

第2部 16:00～17:00

第125回 定例研究会

司会（漢人省三）、記録（藤田秀紀）

新会員紹介

1．研究報告、調査報告

[125-11-01] 報告「工業系の夜学校の歴史点描」

佐々木 享（30分）

質疑 10分

2．その他の諸報告、保存問題など

[125-21-01] 「創立20周年記念誌について」

佐々木 享（5分）

[125-21-02] 「

（分）

3. 研究誌、会報(研究会ニュースレター)

- [125-31-01] 研究誌『産業遺産研究第 21 号』について 天野武弘 (2 分)
[125-31-02] 会報ニュースレター 電子メール版の原稿募集 橋本英樹 (1 分)

4. シンポジウム

- [125-41-01] シンポジウム「日本の技術史をみる眼」第 32 回 山田 貢 (2 分)
[125-41-02] 「 」 (分)

5. 見学会、その他の催し物

- [125-51-01] 2013 年度「ものづくり文化再発見！ウォーキング」報告 柳田哲雄 (3 分)
秋コース：名古屋港近代産業遺産と海(街)道を巡るリニア・鉄道館
実施日：平成 25 年 11 月 16 日(土)
コースの概略：名古屋港ふじの広場 奥田助七郎の胸像 築地灯台 名港火力発電所跡
名古屋野鳥館 稲永ビジターセンター リニア・鉄道館 参加者数 約 名
[125-51-02] 「2013 年 パネル展」 大橋公雄 (3 分)
1 . 2013/11/19(火)～12/01(日) 名古屋都市センター11F まちづくり広場・企画展示コーナー
2 . 2013/11/24(日) 13:00～17:00 講演会・公開研究会 名古屋都市センター11F ホール
[125-51-04] 「定例研究会で見方調べ方や調査研究報告予定及び見学希望の用紙記入のお願い」
大橋公雄 (2 分)

6. 文献紹介、資料紹介 ()内は紹介者

【参考文献】

- [125-61-01] 「 」 ()
[125-61-02] 「 」 ()

【参考資料】

- [125-62-01] 「2013 年度全国大会 研究発表講演予稿集」産業考古学会 (事務局)
[125-62-02] 「 」 ()

【その他の資料】

- [125-63-01] 「ニュースレター vol.96」名古屋都市センター (事務局)
[125-63-02] 「ニュースレター vol.97」名古屋都市センター (事務局)
[125-63-03] 「G I H会報 No.92」岐阜産業遺産調査研究会 (事務局)
[125-63-04] 「産業技術記念館 館報 赤れんが Vol.62」産業技術記念館 (天野武弘)
[125-63-05] 「産業技術記念館 館報 赤れんが Vol.63」産業技術記念館 (天野武弘)
[123-63-06] 「 」 ()

7. 出版広報事業

- [125-71-01] インターネット <http://csih.sakura.ne.jp/> 左記です。一度ご覧下さい。
[125-71-02] 中部産業遺産研究会の本

8. 委員会、役員会、研究分科会

- [125-81-01] 幹事会・役員会
・第 1 回 役員会 2013/05/30(日) 13:00～16:30 名古屋市緑生涯学習センター美術室
・第 1 回 幹事会 2013/08/06～10 電子メール
1、ウォーキングの本年度の謝金について
・第 3 回 幹事会 2013/12/中旬頃 名城大学名駅サテライト ディスカッションルーム (予定)
[125-81-02] シンポジウム「日本の技術史を見る眼」第 32 回 実行委員会

- ・第2回 2013/08/04(日) 10:00～12:00 名城大学名駅サテライト 会議室
- ・第3回 2013/11/24(日) 10:00～11:30 名古屋都市センター11F 喫茶コーナー(予定)
- ・第4回 2014/01/26(日) 10:00～12:00 名城大学名駅サテライト 多目的室(予定)
- [125-81-03] 第9回「2013年度 パネル展・近代名古屋と海外との関わり
- 戦前の国際都市名古屋 -」勉強会
- ・第5回 2013/10/09(日) 14:00～16:30 名古屋都市センター13F
[125-81-04] 研究誌『産業遺産研究第21号』編集委員会
- ・第1回 2013/10/25(土) 10:00～12:45 名城大学名駅サテライト ディスカッションルーム
- ・必要に応じて電子メールや電話にて開催
- [125-81-05] 創立20周年記念事業 実行委員会
- ・第1回 2013/06/22(土) 14:00～17:00 名東生涯学習センター
- ・第2回 2013/09/05(土) 13:00～18:00 佐々木享宅
- ・第3回 2013/11/17(日) 13:00～16:00 名東スポーツセンター(予定)

9. 総務・事務局関係

- [125-91-01] 研究会スケジュール、関連団体スケジュール、他
- ・創立20周年記念 講演・祝賀会 2013/12/07(土) 11:00～15:00 ルブラ王山 弥生の間
- ・第126回例会 2014/01/26(日) 13:00～ 名城大学名駅サテライト 多目的室
- ・第127回例会 2014/03/23(日) 13:00～ 名城大学名駅サテライト 多目的室
- ・第22回総会・第128回例会 2014/05/25(日) 13:00～ 未定

[125-91-02] 会員異動 ()内は入会日・退会日

- ・入会：ありません
- ・退会：ありません

16:50 終了 後かたづけに協力してください。お忘れ物がないようにお願いします。

[懇親会] 17:20～ 中華料理豫園 金山店 会費3,000円 (野口・近藤)

・規約改正検討委員会設立について

規約改正検討委員会設立趣旨

2013.8.4

規約改正検討委員会(長) 杉本漢三

高齢化や電子化時代の紙離れの今日、当中部産業遺産研究会は、旧態依然とした規約、運用などにより、年会費原資に対する総支出との収支差は、ここ数年、実質的に赤字傾向になっている。

このままでは、近い将来、当会は財務破綻しかねないことが以前から懸念されていたが、これは書籍の販売収益の減少など、時代に適応していなくなったためである。この書籍管理会計と会誌執筆要綱を今の社会通念に適応した姿に見直して、財務維持する必要がある、10年前の規約、規則類、執筆要綱などを改正するための規約改正検討委員会が設立されることになった。

1. 委員会の構成(7名)

- 委員長 杉本漢三
- ・副委員長[委員長代理] 天野武弘
- ・委員(事務局長) 野口英一郎
- ・委員 寺沢安正
- ・委員 橋本英樹
- ・委員 朝井佐智子
- ・委員 岩井章真

2. 見直しを要する規約、規則、要綱などと委員会の方針案

2-1. 会の規約(2004.5.23)

顧問および監査役の扱いを是正。事業収入を抹消し、雑収入を追加する。その他、実態と乖離している箇所などの改正。

2-2. 会計資産管理規則(2004.5.23)

二重会計になっている書籍会計を廃止し、一般会計のみとする。資産管理では永久保存を改め、保管期限を決めて逐次処分していく。

2-3. 「産業遺産研究」会誌の執筆要綱(2006.4.15)

最も財政を圧迫しており、時代に合わせ「原稿の量」は、まず本来の本則に戻す。(10年前の増頁特認は廃止する)。編集委員会で電子データ様式(フォーマット)の統一化を図り、頁数などの合理化を実施する。10年前に厚さ1cmほどであった各種組織の会誌類は、今では社会通念として、厚さ3mm程度に減頁されている。

2-4. 「研究会発行書籍の規定」は2015年5月に見直しが決まっており、今回は対象外となる。

3. 今後の対応

これら規約改正検討委員会の検討結果は、10月末頃までに取り纏め、11月度幹事会に報告し、この審議結果は翌年5月の役員会に諮り、平成25年度総会(2014.5.25)に上程して、会員の承認を得ることとしたい。

以上

. 創立20周年記念事業のお知らせ

中部産業遺産研究会は、前身の「愛知の産業遺跡・遺物調査保存研究会」を継承発展させる形で1993年5月に創立総会が開かれているが、この年から数えて今年ちょうど20年に当たる。昨年の総会で「創立20周年」記念行事を執り行うことが決められ、今年の総会で記念集会開催と記念誌発行の2本柱の行事計画が承認された。同時に実行委員会が組織され準備が開始されたので、現段階の準備状況を含め報告する。

1. 「創立20周年」記念集会の開催要項

正式呼称：中部産業遺産研究会創立20周年記念集会

1993年の中部産業遺産研究会創立を起点とする20周年で意思統一し、それ以前の活動は「前史」として位置づける

日時：2013年12月7日(土)11:00~15:00

場所：ルブラ王山(名古屋市千種区覚王山通8-18) 電話052-762-3151

地下鉄東山線「池下」下車・徒歩5分

日程：第1部

開会挨拶 11:00

記念講演(60分)

講師 鈴木淳氏(東京大学)「産業遺産研究の到達点と課題」(仮題)

第2部

祝宴 12:30(祝辞を含む)

閉会挨拶 15:00

参加者：会員、招待者

案内状を送付し、事前に参加者名簿を作成

参加費：6,000円

2. 「記念冊子」の発行

名 称：『中部産業遺産研究会創立 20 周年記念誌』
内 容：20 年の到達点と課題（活動、成果、課題などの研究書的なものを企図）
出版形態：単独の記念誌とする
編 集：記念行事実行委員会のもとに設ける編集委員会にて行う
原稿内容の詳細は後日連絡
原稿は指定フォーマットで提出
原稿締め切りは 2014 年 2 月末日
発行時期：2014 年 5 月

3．記念行事の費用

「20 周年記念行事特別会計」の設置及び「田中基金」からの補助（上限 30 万円）
総会で承認される
予算案の収入内訳は、記念行事用の積立金 15 万円、「田中基金」より上限 30 万円
寄付金、記念集会参加費 6,00 円 / 1 人

4．記念行事実行委員会

実行委員長：佐々木享顧問
実行委員：大橋公雄、天野武弘、岩井章真（編集委員ほか今後増員を予定）

．『産業遺産研究』インタビューの開催について

今年度のインタビューは、下記のようにになりました。ご都合つく方ご出席をお願い致します。
インタビューされる方：寺澤安正副会長
インタビューする方：水野信太郎会員
日 時：2013(平成 25)年 11 月 21 日(木) 17：30～（会場は 17 時から使用できます）
場 所：名城大学名駅サテライト・ディスカッションルーム 3

．「ものづくり文化再発見！ウォーキング」の開催について

本年度秋コース：名古屋港近代産業遺産と海（街）道を巡るリニア・鉄道館
実 施 日：2013(平成 25)年 11 月 16 日(土)
コースの概略：名古屋港ふじの広場 奥田助七郎の胸像 築地灯台 名港火力発電所跡
名古屋野鳥館 稲永ビジターセンター リニア・鉄道館
当日のご参加をお願いします。

．第 32 回「日本の技術史をみる眼」について

第 32 回「日本の技術史をみる眼」は、具体的にはなっていませんが下記で進めております。
題 名：「技術革新と技術史を学ぶこと（仮）」
場 所：「名城大学名駅サテライト 多目的室（予定）」
開催日：「2014(平成 26)年 3 月 23 日(日)午後（予定）」
当日のご参加をお願いします。

・ 短 信

旧渡辺織布（蒲郡市三谷町）の操業停止と機械保存

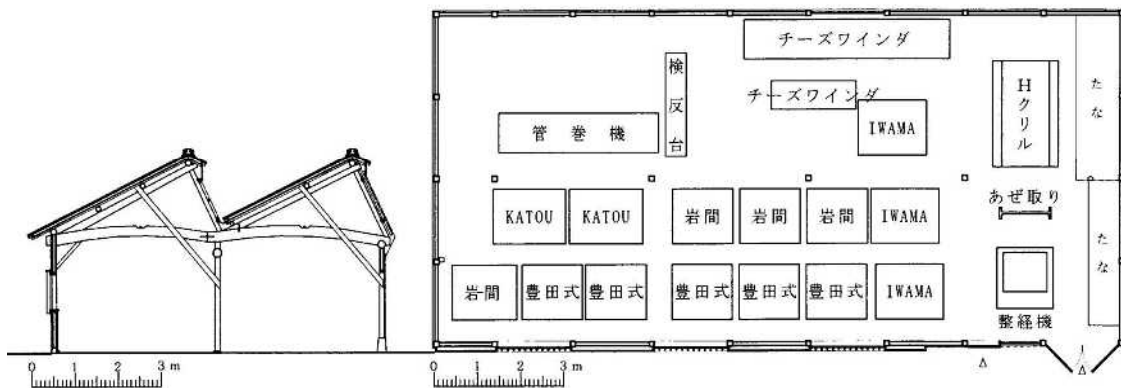
三河木綿の産地蒲郡市内でも唯一の集団運転による織布工場と知られていた渡辺織布が、3年前の2010年8月末日で操業を停止した。たて糸、よこ糸ともに40番手単糸という極めて細かい木綿糸を使用して、近年は有松絞り用の小幅の白生地に特化して織布していた工場であった。また、渡辺織布で使用していた機械は、大正末か昭和初期に設置されたY式と呼ばれる小幅の豊田式織機5台（他メーカーの織機9台）同年代頃と思われる整経機1台をはじめ、いずれも歴史的機械が稼働する工場としても知られていた。

突然の操業停止は、原料となるシルケット加工した40番手単糸が、それまでの10倍以上となるロット注文でなければ入らないという事態に直面し、規模の小さな織布工場ではとても応じきれないことが理由であった。また御当主の高齢化もその背中を押したようであった。慌てたのは供給先の有松絞りの業者であったが、思い切りの良い御当主の心を動かすまでには至らなかった。

操業停止の半月後となる9月半ばに事態を知った筆者は同工場を訪問し、御当主より再開の予知は全くないと考えを聞くに及び、以前より止めるときは設備している歴史的機械の保存を話していたこともあり、その方向で動くことの同意を頂いた。

同工場については、これまでに見学会の開催や、学会や雑誌等で紹介されてきたが、この地域の織布工場によく見られる2連の鋸屋根を持つ小規模な木造工場で、建設年は大正末か昭和初期頃といわれている（渡辺織布は昭和6年に現工場を購入して創業）。工場内には、小幅の

天野武弘



現状断面図

現状平面図

動力織機が14台、準備機械のたて糸をつくるたて巻機と整経機が1台、よこ糸をつくるよこ巻き機が1台、それに独特な方法により行われていた糊付け機などが設備され、その多くが操業停止時まで使われていた。

停止後の保存への働きかけでは、当初は、蒲郡でも歴史が古くしかも集団運転されたかつての織布工場の様子を見る市内でも最後となった同工場を、機械を含めそっくりそのまま残せないかと思い、まずは蒲郡市に打診を行った。しばらく検討を頂いたが困難との回答。次いで関係しそうな博物館や企業、大学などに打診した。しかし一括保存は容易な状況ではないことが次第に浮き彫りになり、御当主とも相談の結果、個別打診に方針を切り替えることになった。

その結果、機械の一部ではあるが最終的に4箇所から引き取りの快諾を頂くことになった。内訳は、豊田式織機のY式3台とたて巻機1台、よこ巻き機（管巻機）1台（部分）、整経機1台（一式）が名古屋市内の博物館に、Y式1台と岩間式1台が豊橋市内の資料館に、Y式のもう1台は西尾市の豊田自動織機の協力会社に保存となり、IWAMA式の織機3台と糊付け設備一式が京都市内の織物工場で再利用されることとなり、いずれも2013年8月6日に一斉に搬出された。残りの織機などはスクラップとなった。

筆者としてもまた中部産業遺産研究会としても20年以上前から調査等で関わり、広く紹介もしてきた織布工場であったが、今夏その勇姿が消えることになった。今後保存される機械の展示、再活用を祈念し、報告としたい。



・ 短 信

見学記 旧山田家鋳物民俗資料館（枚方市） 渡辺 治男

“Museum of TANAKA Casting Factory in Hirakata City”

大阪府枚方市に在る「旧田中家鋳物民俗資料館」は国内で唯一の江戸時代の姿を残していた鋳物工場を移築して資料館としたものである。2013年6月20日に訪問したのでその概要を紹介する。

なお、文中で鋳造特有の言葉は「 」で表した。また、引用数字なき写真は筆者の撮影である。

日本の鋳物産業の発祥の地は大阪の河内国と言われている。田中家はこの旧河内国茨田郡枚方村（現大阪府枚方市枚方上之町）で古く江戸時代から鋳造業を営んでいた。江戸時代、真継家は鋳造業の元締めとして多くの鋳造者を支配下に治め、

真継家支配形態

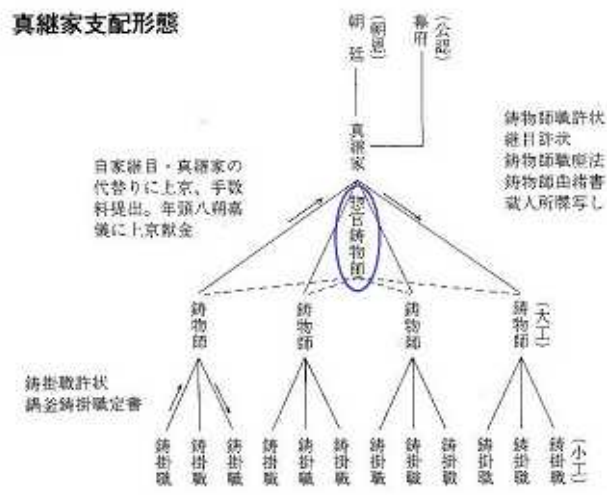


図1 真継家支配形態⁽¹⁾



図2 資料館の所在地⁽²⁾

優れた鑄造技能者に「鑄物師(いもじ)」の称号を与えた。田中家は真継家から北河内で唯一正式に営業を許可された鑄物師で、「河内国左右惣官鑄物師(複数の鑄物師を統括できる資格)」なる名誉ある格式を保有していた(図1)。

田中家は江戸時代を通じて日常生活に使う鍋・釜や農機具のほか寺院の梵鐘などを鑄造していた。明治以降も伝統技術を守った鑄造業を続けていたが1965(S40)年頃に廃業した。田中家の鑄造工場と主屋が枚方市藤坂の王仁公園横に移築・整備されて資料館として公開されている(図2)。

写真1は工場入口、写真2は工場の裏側で細長い建屋の土壁には多数の格子窓を配して風通しを良くしている。また、屋根の上には鑄鉄溶解炉「こしき」の熱を逃がす風袋が設けられている。



写真1 鑄造工場の入口



写真2 鑄造工場の裏側⁽²⁾

内部にはこしきによる鑄造作業の様子(写真3) 炉に空気を送り込む大型の足踏み式吹子の「踏鞴(たたら)」とそれを踏む「番子」と称する作業員の様子(写真4)が模型で展示されている。踏鞴については実際に使用されていた踏板の現物展示も有り、後で詳しく述べる。



写真3 こしき作業



写真4 踏鞴作業



写真5 梵鐘の外型・中子・中子挽型



写真6 こしきの現物

また、1935(S10)年頃まで使用されていた梵鐘製作用の外型・中子・中子用挽型（写真5）や廃業時まで田中家で使用していたこしきの現物展示（写真6）も有る。

[踏鞴（踏吹子とも言う）について]

本資料館には1935(S10)年頃まで田中家で使用していた踏鞴の踏板の現物展示がある（写真7）。踏鞴は平安時代から18世紀にかけて多く使用された形式で、この踏板が現存するのは大変珍しい。



写真7 踏鞴の踏板

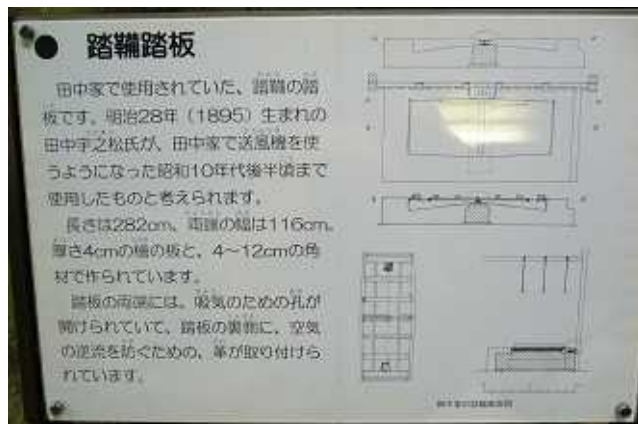


写真8 踏鞴の断面図とつかまり綱

踏鞴の動作原理：踏板の中央を支点とした楔形断面の空気室が左右に配置されていて踏板を交互に踏み下げることで空気を圧縮して支点近くに設けられた吐出口より空気を炉に送出する。番子は左右それぞれ2~3名配置され、体のバランスを取るために梁から吊り下げられた綱につかまりながら踏板に体重を掛けたり降りたりする。展示の踏板寸法は、縦282cm 横116cmである。

踏板には写真9で示すような吸気口が両側に有り、革を張った逆止弁が設けられている。また、写真10のように長年の使用で番子が乗る両端の部材は磨滅しているが、両側のみ磨滅していることから片側2名の番子が作業していたと見られる。

余談になるが、あわてたり、動転したりした際に急に走ろうとして空足を踏むことを「たたらを踏む」なるフレーズが有るがこれは踏鞴を踏む作業を模したと言われる。



写真9 革が張られた吸気弁



写真10 磨滅した踏板の部材

18世紀初頭になると踏吹子を改良した「天秤吹子」(図3)が考案された。天秤吹子は2枚のしま板（踏板）が天秤機構でつながっているため番子が一人でも作業ができる。次いで連続的に送風できる「吹差吹子（ふきさしふいご）」(図4)が登場して送気効率が良くなった、また動力源と結合することで人力を必要としなくなり近年まで多くの鑄造工場で採用された。

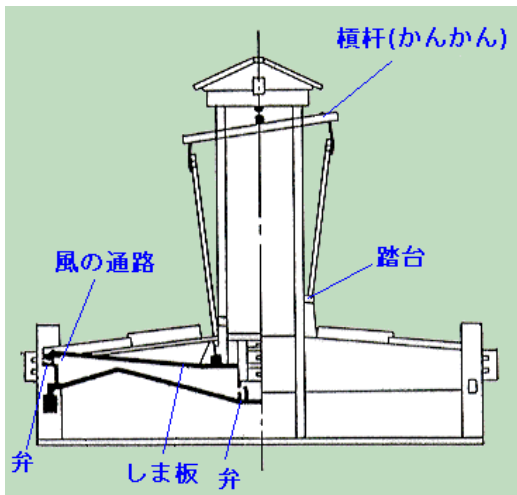


図3 天秤吹子の構造⁽³⁾

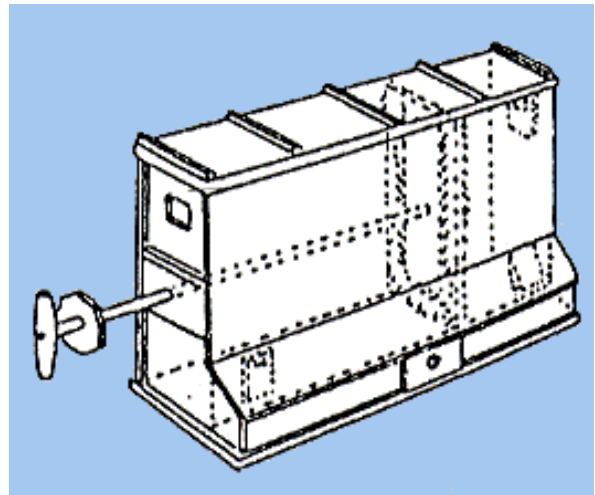


図4 吹差吹子の構造⁽³⁾

【参考文献】

1. 『豊川の鑄物師』、豊川地域文化広場ふるさと資料館、1990
2. 『枚方市立 旧田中家鑄物民俗資料館パンフレット』、枚方市文化財研究調査会、2013
3. 『たたらの話』、日立金属ホームページ、2013

以上

お知らせ

会計幹事より、年会費納入について

2013年度の年会費の納入をお待ちしています。例会時に現金支払いも出来ますが、担当者が欠席する場合がありますので、手数料が発生しますが下記の郵便振替や銀行口座をご利用ください。

個人の年会費は4,000円です。

[郵便振替] 口座番号：00840-1-174258 口座名：中部産業遺産研究会

[銀行口座] 三菱東京UFJ銀行 鳴海支店 普通預金 口座番号：1531266

口座名：中部産業遺産研究会 会計 市野清志

また、2012年度の未納の方も数名おられ、2年間未納の場合は退会となります。

問い合わせは、市野会計幹事 (ichino82@tcp-ip.or.jp) または当会事務局までお願いします。

会報の編集より

編集委員の募集および、ご意見やご希望などお願いします。

産業遺産に関する情報・短信・文献紹介などお気軽にご投稿ください。投稿は郵送または電子メールでお送りください。写真には必ず撮影者と撮影日時を記載したメモを貼り付けてください。原稿はテキスト形式で作成していただくと編集作業がしやすいので、なるべくテキスト形式でお願いします。

中部産業遺産研究会会報 第54号

Newsletter of The Chubu Society For The Industrial Heritage Vol.52 2013-11

発行：中部産業遺産研究会

発行人：石田正治

発行日：2013年11月15日

編集委員：中住健二郎・橋本英樹・伴公太・野口英一朗

事務局：〒453-0014 名古屋市中村区則武2-34-12 シェルコ-ト則武502 野口英一朗気付

中部産業遺産研究会のホームページは、<http://csih.sakura.ne.jp/>です。

掲載記事の無断転載を禁じます。

Copyright 2008-2013 The Chubu Society For The Industrial Heritage, All rights reserved.